

【随筆】

ダニも動き始める春ですね

住 吉 尚

(釧路支部)

季節の変わり目ですから、3～4月にかけては1週間もすると違った風景を見ることになりますよね。3月は一雨ごとに春が近づいて来る感が強いです。厳冬期には本州方面に渡っていたガンの仲間が、極北の繁殖地に向かう途中ですが、北海道まで戻って来ます。今年3月9日にシラルトロ湖の凍結した湖上に、ヒシクイの大群が寝ているのが見えたのが初認です。この日のシラルトロ湖はまだ全面結氷していたので、国道から最も遠い湖上で寝ていたのでしょう。去年は3月8日に同じシラルトロ湖にヒシクイの群れが飛来しているのを見えています。この時は湖面の3割ほどで氷が融けていましたから、氷が融けたところにヒシクイが集まっていたのですが、どうやらこの冬は昨年より寒く、氷が厚く張ったから湖の氷が融けるのが遅いのでしょう。一昨年は3月10日が初認ですから、毎年同じように3月10日頃には帰って来るようです。そして12日には風蓮湖周辺の牧草地でもヒシクイの群れが見られるようになりましたから、東北各地や新潟方面で越冬したヒシクイやマガンが続々と北上を始めているようです。15日に十勝川下流方面に行ってみました、マガンとヒシクイの他に、オオハクチョウも戻りつつあるように見えました。でもオオハクチョウはここでの越冬個体も多いので、ぐっと増えたと言うほど



オオハクチョウ、ヒシクイ、マガン、オナガガモなどがあります

の印象はありませんでした。オオハクチョウ、ヒシクイ、マガンにオナガガモと、大きさも違う鳥が大きな群れを作って、何を食べているのか盛んに地面を突いている風景も見ました。でもまだハクガンやシジュウカラガンは来ていないようで、この日は会うことはありませんでした。

ヤナギの花芽が白い綿毛となり始めるだけでなく、昨年伸びた枝が赤みを帯びて艶々として、「さー春が近づいたぞー！」と言う感じです。こんな葉が出る前の小さな変化にも春が近いことを感じるのですから、北海道人はやはり春を待ち焦がれていると言うことでしょうか。こんな変化に春を待ちきれなくなり、少し早いかな？と思いつつながら早春の香りを求めて車を止め、長靴に履き替えて、まだかなり深い雪の中、急な斜面を慎重に下って沢に。湧水が流れになるところにクレソンが。まだまだ水面下に葉を広げているだけでしたが、一握り摘んできて、夕飯のおかずになりました。少し苦みがある独特な香も、春を感じさせ良いものです。これが3月末になると水面から上に茎が伸び始めますから、採るのもずっと楽になります。フキノトウも出ていますが、私はキク科植物の花粉アレルギーがあり、フキノトウでひどい腹痛を経験しているので、せっかくの、あの春の香が楽しめます。フキノトウは雄花と雌花があるので、もしかしたら雌花だけを食べるとアレルギーが出ないかもしれないとは思っているのですが、怖くていまだにチャレンジできてはいません。本州ではもう桜が満開とか。東北でも開花とのこと。ここ釧路ではサクラは当分先のことですが、皆さんも春を探してみたいはいかがですか？遠く、野山に分け入らなくても、すぐその庭先にも春が来ているのが見つかるかもしれませんよ。

ご存じでしょうが、冬にだけ見られる鳥は冬を日本で過ごし、春になると日本より北の北極圏などで繁殖する鳥です。一方、夏にだけ見られる鳥は北海道より南の暖かい地方で冬を過ごし、繁殖のために北海道に渡ってくる鳥です。3月20日のことです。車で走っていると電線に頭の白いノスリが。「おー、ケアシノスリだ！」ケアシノスリはこの冬、時々見てはいましたが、飛んでいる時ばかりで、飛んでいる鳥を写真に収めるのはなかなか難しく、良い写真は撮れませんでした。今回は電線に止まっていたので、それらしい写真が撮れました。ケアシノスリのように極北の寒い地方で暮らす鳥は足の先まで羽毛に覆われて、寒さから足先を守っています。私はハクセキレイが越冬し、足の指が凍傷で短くなり2年目には指がほとんどなくなるのを見えています。それほど釧路



ケアシノスリ



営巣中のアオサギ



オジロワシ

の冬は野生動物にとっても厳しいのです。でもオオワシやオジロワシそしてシマフクロウなどは、水中の魚を掴むために羽毛が邪魔になるようで足に羽毛はありません。ケアシノスリはそろそろ北へ帰るのでしょうが、今少しの間、ネズミを探してホバリング（空中で静止して獲物を探している状態）しているのが見られるかもしれません。

暖かくなり湖沼の氷が融け始めたところにアオサギがぼつぼつ見え始めたと思っていましたが、22日に塘路湖畔を通った時には、アオサギの繁殖コロニーにはすでにたくさんのアオサギが来ていました。それぞれの巣に止まっていますが、冬を越した巣が痛んでいるので修理をしているところだったようです。アオサギは釧路では夏鳥ですが、多くは陸奥湾より南の本州で越冬していると言いますから、本州では留鳥（一年中見られる鳥）です。越冬地が近いので帰ってくるのも早いでしょう。本格的な夏鳥が渡ってくるのは、もう少し先になります。例えば空中を大きな声で「ガ・ガ・ガ・ジャウ・ジャウ・ジャウ」と鳴くオオジシギはオーストラリアから来るのですが、ゴールデンウィーク頃になるでしょうか。このオオジシギはオーストラリアから日本まで一息で休まずに飛んでくると言いますからすごいですよね。オオジシギが鳴き、カッコウが鳴くと春たけなわでしょう。そして「ジョッピンカケタカ」とエゾセンニュウが鳴くともう夏、盛夏でしょうか。これはエゾセンニュウがヨシの茎が伸びてから、この茎に巣をかけるために繁殖が遅いのです。鳥にはそれぞれ繁殖に適した場所やタイミングがあるので、渡ってくるタイミングもそれぞれなのです。などと思いながら走っていると道路脇にフクジュソウの黄色い花が咲いているのが見えました。日当たりが良い斜面ではギョウジャニンニクが芽を出すころですね。ギョウジャニンニクが出ると釧路も春本番です。でもここ釧路では地面が凍結しているので庭仕事はもう少し先になるでしょう。庭の隅に植えてある山わさびを掘り、すり下ろして、暖かいご飯に乗せてみました。鼻に抜ける辛さに春を感じました。でも今年は3月中でも畑にスコップが刺さり、土の下から大きなミミズが出てきたので、最近はずいぶん変わったものです。

3月27日の土曜日のことです。まだまだ早いと知りつつですが、待ちきれずにカレイ釣りに行ってみました。結果は予想通りの惨敗でした。小型のカワガレイが少し釣れただけでした。でも意外な場所でクロガレイが産卵しているということが判ったのは収穫でした。そこは沼に通じる水路で水深は1mほどです。もう少し水が澄んでいたら魚の姿が見えるかも？と思うほどのところで、水底は砂地でした。ここに産卵途中のクロガレイがいましたが、卵は産卵途中ですからどろどろになっていて、身は痩せていて、共に食用になるようなものではありませんでした。今までに産卵期の雄は釣ったことがありま

したが、雌を釣ったのは初めてのことで、しかもこんな浅い場所が産卵場所なのは全く意外でした。釣りはさっぱりでしたが、この日はヒバリがさえずっているのを今年初めて聞き、満足して帰りました。ニュースによれば气象台発表に自然の観察がほとんどなくなるとか。これは各地の气象台で、カエルだとか、ヒバリだとかを観察することが難しいのだとか。地方都市でも气象台の周辺は都市化が進んで、周辺に自然がなくなったためなのでしょう。私には少し残念なニュースでした。

翌28日は十勝川河口部にガン類を見に出かけました。愛牛樋門から十勝川築堤に上がり左右を見ながら河口部へ。動き出してすぐです。真っ白い鳥の群れが近くの畑へ。まるでそこだけ雪が残っているようです。ハクガンの群れです。数百羽もいるのでしょうか？大きな群れです。急いで築堤を降り、群れに近い道はここかな？と行ってみました。群れは皆、草を食べるのが忙しそうに頭を中々上げません。全員が草を食べながら前へと進んでいきます。双眼鏡で先頭を見てみると、先頭から5～6羽目に黒いガンが1羽混ざっているのが見えました。「おー！」これは私が初めて見る黒いハクガンで、アオハクガンと呼ばれる色彩変異個体です。4～500羽いるハクガンの群れの中でたった1羽だけがアオハクガンでした。写真を撮ったのですが、私の腕が悪いせいであまり良い写真にはなりませんでしたが、珍しいので載せてみました。帰りに浦幌十勝川近くでやはりハクガンの大きな群れが飛んでいるのが見えましたから、今年は1,000羽を超すハクガンが飛来しているようです。このハクガンたちはもうすぐ北極海に浮かぶウランゲル島に飛んでいくでしょう。

道路脇のフクジュソウはもう葉を広げ始めています。早いですね。車の温度計では外気温度が15℃と出ていま

した。私が動物園に勤務していた頃、ゴールデンウィークに動物園の海風が入らない芝生広場周辺の外気温度が15℃を超えて欲しいといつも思っていました。外気温度が15℃を超すとアイスクリームや冷たいジュース類が売られるようになります。そしてお客さんがのんびり園内を散策し、動物たちを見て歩くのに良い気温なのです。釧路も暖かくなりましたね。まだ3月と言うのに数十年前のゴールデンウィークと同じ気温なんて！

水曜日はいつも獣医師会の事務をしています。朝机に座って書類を見ようとしていると、左の手の甲に何かポツリと落ちてきたような気がして「シー！」よく見ると、なんとダニが1匹。昨日落ち葉を踏み分けクレソンを採りにヤブに入ったので、その時に付いたのでしょう。でも服は着替え、風呂にも入って体は流しましたから、今頃になってダニが？と思いました。でもよく考えると車のシートに付いていて、今朝になって私の体に移ってきたということは考えられますね。3月でまだ寒いのでダニにまで注意が向いていませんでしたが、昨日はクレソンを採った場所での車の温度計では17℃を指していましたから、ダニが活発に行動しても不思議はありません。この時期は山菜採りなどで野山に入る人も多いでしょう。こんな時、歩きやすいので踏み分け道のようなところを歩くことが多いですね。でもこの道はほとんどがシカ道です。このシカ道に沿ってダニがいるのです。シカの体に付いたダニはシカの血を腹いっぱい吸うと落ちて地面に卵を産みます。この卵が孵るとまたシカが通るので、シカの体に付いて血を吸い大きくなります。ダニにはいくつかの種があり、一度吸い付くと付いたまま脱皮を繰り返して成虫になるものと、脱皮ごとに繰り返して落ちたり付いたりを繰り返す種があります。でも人間に付いたダニは見つけ次第駆除されますから、いつま



ハクガンとアオハクガン



抱卵中のタンチョウ

でも付いている訳には行きませんね。コロナ禍が続いていますが、野山に混じりて山菜を採りつつ…。竹取の翁ならぬ山菜採りの爺さんでしょうか。これなら感染もないでしょうから、気兼ねなくストレス解消になると思いますがどうでしょう？

30日に抱卵中のタンチョウを見ました。これが私の初認です。こんなことをしているうちに、獣医師会的には何もできなかった2020年度が終わりました。でも遊び惚けていたわけではありません。17日には恐る恐るですが札幌での北獣理事会に出て、大急ぎで帰って来ました。そして4月22日にはまた理事会をやるから来いと言います。怖いですね！

〈句題〉 猫の恋

「三密で闘たたかひ唸うなる猫の恋」

「三密で触れあふ猫の恋成就じょうじゆ」

「恋猫の組くんづ解ほどれつ向むかふ傷」

(室蘭市 白波瀬 稔歳)

